

第4期協働によるまちづくり 推進計画の策定に向けて ニュースレター vol.3



職員ワーキング

2025年6月23日(月)

13:00～17:15

廿日市市役所 1階会議室

第4期協働によるまちづくり推進計画の策定に向けて、協働により推進する事業に携わる関係部署を中心とした職員19人によるワーキングを開催しました。

ワーキングでは、これまでまちづくり活動団体に実施したアンケート調査結果や策定委員会での意見などを踏まえながら、廿日市市協働によるまちづくり基本条例に規定する4つの「協働によるまちづくりを推進する仕組み」ごとに、どのような点を重視し取り組むべきか等について、グループに分かれて検討しました。

推進する仕組み (1) 特性を生かしたまちづくり

取組方針(案)	どのようなことに注力すべき？(抜粋)
○ まちづくりの拠点の体制及び環境整備 (ソフト及びハード)	・地区や地域、市域のまちづくり拠点の相互連携と情報共有の強化 ・施設のバリアフリー化などより使いやすい施設にするための環境整備 ・市民等へまちづくり拠点施設の機能を周知
○ 多様な主体がつながる場の推進	・円卓会議の意義・意図の理解を深める研修・情報共有 ・市役所内で情報共有・連携する ・地域自治組織の現状・困りごとを共有する機会を設ける ・ファシリテート能力など職員のスキル向上
○ ビジネスの手法を取り入れたまちづくり活動の推進	・地域課題の洗い出しと優先順位の設定 ・コミュニティビジネスや有償ボランティアなどの取組事例の共有・周知 ・地域と学校が連携した人材育成(キャリア教育)の実施

推進する仕組み (2) 情報発信による信頼関係づくり

取組方針(案)	どのようなことに注力すべき？(抜粋)
○ 受け手の立場に立った情報発信・共有の推進	・受け手に応じた情報発信方法の工夫(対象の明確化、翻訳アプリなどの活用、複数の媒体からの情報発信、分かりやすい表現 等) ・研修会の実施による情報発信スキルを持つ職員の育成 ・必要な情報を必要な人に届けることによる信頼関係の構築



推進する仕組み (3) 人づくり

取組方針(案)	どのようなことに注力すべき？(抜粋)
○ 市民相互の学び合い支援	・多世代が自由に入出入りできる学びの場づくり ・個人の学びを生かすことを伝える講座など「講座」の内容を工夫する(対話型講座や出張講座の開催) ・学びを生かす活動の場の提供や講座開催などの情報が広く届くよう支援する
○ 子どもや若者の地域への理解や愛着の醸成	・学校と地域の連携を強める ・学校を核に地域のことを学ぶ(廿日市市について体系的に学ぶ、ふるさと学習の継続等) ・子どもや若者が主体的に活躍できる地域づくり
○ まちづくりに参加・参画しやすい仕組みづくり	・互いを尊重し、多様な主体が連携できる場づくり ・まちづくり拠点の体制を整える(相談体制、伴走支援、マッチング機能など) ・参加しやすいように既存の取組等を見直す
○ 協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成	・地域と顔の見える関係性を築く(地域に出て、直接関わる) ・調整力・対話力・現場力を養う研修の充実 ・協働を意識して他部署や関係者と課題や情報を共有して話し合う

推進する仕組み (4) 評価及び支援

取組方針(案)	どのようなことに注力すべき？(抜粋)
○ 適正な評価及び支援	・適切な支援に向けた評価方法の工夫(有識者による評価、学校や地域と連携して評価する、市民活動の公益性について分析 等) ・活動がより良くなる手法や支援者を紹介する ・評価が高い活動を周知できる方法を検討



グループで話した内容を全体で共有した後、各自が共感する意見に「いいねシール」を貼りあうことで、特に重視すべき考え方や取組の方向性を明確にしました。

今回のワーキングでは、参加した職員の現在の所属における取組状況や市職員としてこれまで培った経験からの気づきなど、幅広い視点での意見が出ました。今回のワーキングの検討結果や意見などは、次期推進計画の取組方針等へ反映していきます。

今後は、策定委員会や協働によるまちづくり審議会において、計画の策定に向けた取組を進めていく予定です。